

「JA グリーン近江での 堆肥活用について」

ー 環境に配慮した地域農業の振興・活性化への取り組み ー

令和 5 年 2 月



グリーン近江農業協同組合

JAグリーン近江の概要



名 称 グリーン近江農業協同組合

設 立 平成6年(1994年)10月1日

JAグリーン近江は、平成6年10月1日当時に滋賀県の東近江地域(2市7町)の内、2市6町に存在した9JA(JA安土町・JA老蘇・JA近江八幡・JA日野町・JA大中の湖・JA八日市市・JA永源寺・JA五個荘・JA能登川)が合併し、県下最大規模を誇る大型合併JAとして発足しました。

代 表 者 代表理事組合長 大林 茂松

組合員数 23,875名(令和4年3月末現在)(うち 正組合員 8,533名 准組合員 15,342名)

出 資 金 44億8千万円

役 職 数 理事27名 監事5名 職員 496名(うち 正職員 430名 臨時職員等 66名)

耕地面積 全耕地面積…13,500ha(うち 田地面積…12,760ha、畑地面積…740ha)

施 設 本店(1)／支店(14)／営農振興センター(6)／ファーマーズマーケット(1)／デイサービスセンター(1)／メモリアル課(1)／ガス事業所(1)／燃料配送センター(1)／葬祭ホール(3)／年金相談センター(1)／ローンセンター(1)／育苗センター(2)／CE・RC(10)／農産物加工場(日野菜)(1)／その他農業関連施設／

JAグリーン近江の概要



湖辺地域



近江八幡市、旧能登川町、旧五個荘町の地域

特徴

大中の湖干拓地を中心に平地が広がり、米・麦・大豆の土地利用型農業や露地野菜などの栽培が盛んであり、大規模認定農業者や集落営農法人が多数育成されています。近江牛の産地。

中間地域



旧八日市市、竜王町の地域

特徴

過去から集落営農による農業に取り組まれている地域で、集落営農法人が多数設立されている。竜王町地域では、近江牛や果樹の生産も盛んです。旧八日市市地域では、国営土地改良事業が進められており、野菜の産地化に取り組んでいます。

滋賀県

JAグリーン近江地域

山間地域



日野町、旧永源寺町の地域

特徴

比較的冷涼な気象条件で、当管内でも米の品質や食味が良好な地域です。一部では、集落営農法人が組織されていますが、個人担い手による営農が盛んな地域。

JAの耕畜連携



JAグリーン近江の取り組み

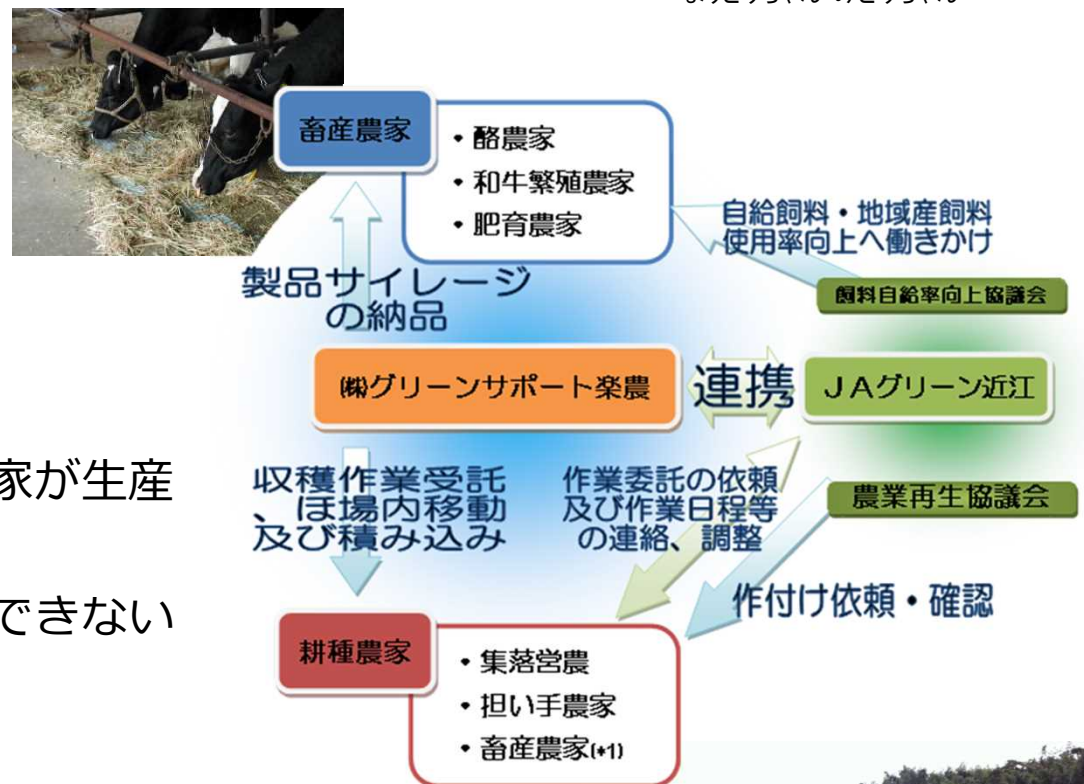
株式会社グリーンサポート楽農の設立
JA100%子会社

担い手の作業サポートのために設立
転作作物の多くを麦や大豆などで担い手農家が生産
転作率の上昇から

湿潤な水田で、麦・大豆が安定して生産できない
地域での、転作が課題

湿潤な水田での安定した転作に向け
水稻による転作として、飼料用米、飼料用稲を推進
国の補助事業を活用して、子会社に
WCS用コンバイン、ラッピングマシーン
ボールグリッパなど専用機械を整備

耕畜連携として、堆肥散布も受託



JAの耕畜連携



WCSの面積が一定まとまったことで
WCSのコントラクター事業が
ビジネスとして成立

楽農のWCS作業受託先であった
担い手の法人へ機械、事業を移行

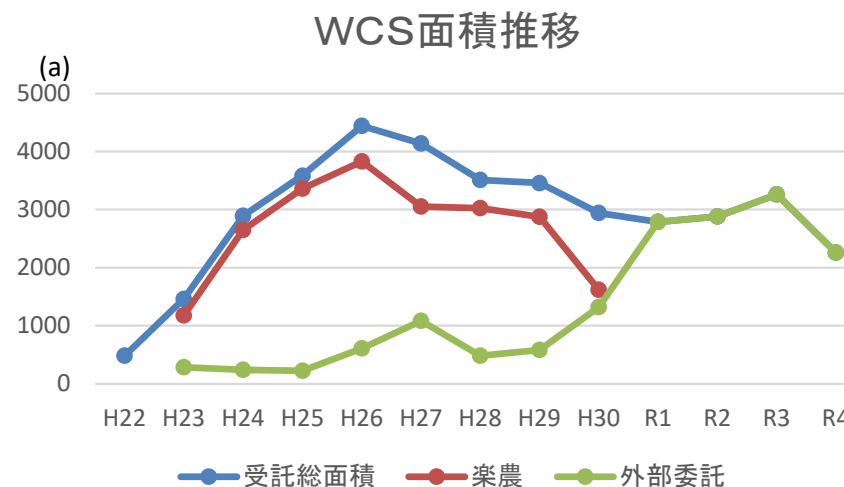
担い手の活躍でさらなる面積増
となり地域農業の活性化に

当JA管内のWCSを受託しつつ他JA地域へも

地域の畜産農家
粗飼料高騰の中、自給飼料の増産
地域の耕種農家
肥料価格高騰の中、堆肥供給の増加
【地域に貢献！】

耕畜連携（資源循環）の 面積推移

楽農のWCS面積推移と
外部委託の面積推移



今後の課題と展望



麦、大豆の転作による田畑輪換で
可給態窒素が低下

牛ふん堆肥の施用が必要

しかしながら、牛ふんの施用は運搬やにおい
などが課題となり、一般化していない。

耕畜連携している圃場か、畜産農家の圃場
などでだけ実施されている。



雑草やガス障害をおこさない完熟堆肥の生産を畜産農家に推進

JA施設のもみ殻を利用してもらいケイ酸を含有した堆肥に

畜産農家

堆肥販売収入、ふん廃棄コスト削減

耕種農家

土づくり資材や肥料コスト低減



WCSからの耕畜連携だけでは堆肥利用が進みにくい

堆肥散布に特化した事業展開

一定面積の確保による堆肥散布事業のビジネス化

面積当たり労働時間の少ない子実用トウモロコシの検討



ご清聴ありがとうございました



 **JAグリーン近江**

経営理念

私たちは人と自然とのかかわりを大切にし、
食を守り地域に愛されるJAグリーン近江をめざします。